

# 令和5年度関東高等学校選抜水球競技大会 兼 第45回関東地域春季水球競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場 【2023/6/18】

## この試合のプレー集計

|           |               |     |   |   |               |
|-----------|---------------|-----|---|---|---------------|
| <b>決勝</b> | <b>埼玉栄 10</b> | 3   | - | 3 | <b>8 神奈川工</b> |
|           |               | 2   | - | 1 |               |
|           |               | 3   | - | 2 |               |
|           |               | 2   | - | 2 |               |
|           |               | PSO |   |   |               |
| 審判： 新井 睦士 |               |     |   |   |               |
| 荻野 浩明     |               |     |   |   |               |

|            |     |            |     |             |
|------------|-----|------------|-----|-------------|
| <b>埼玉栄</b> | 23  | SH数        | 17  | <b>神奈川工</b> |
|            | 4   | 速攻数        | 0   |             |
|            | 11  | ST・SB      | 5   |             |
|            | 7   | SH・P誘発アシスト | 4   |             |
|            | 43% | GK阻止率      | 33% |             |
|            | 6   | EX反則数      | 4   |             |

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

## 【試合の流れ】

埼玉栄は小学生チームからの一貫型を志向しつつ、徐々にその成果を発揮し始めてきており、どの世代でもボール接点での奪取からの泳ぎとパスの素早さが特徴。夏の全国優勝を目指す神奈川工も小学生チームからの継続型という意味では同じで、小学生の頃から競い合ってきた両チームの対戦は、夏シーズンを占う意味で大きな試金石となる決勝戦となった。

### 1P

先にチャンスを作ったのは栄。神工シュートを栄GK⑬大木が防ぎ、そこから前線に出た②阿部がペナルティを誘発した。その栄のPシュートを神工GK①吉村が防いだが、全体のリズムは栄ペースが続いた。ピリオド中盤、神工の4-3速攻シュートをまたもやGK⑬大木が防いで、逆に栄の2-1速攻。⑧皆川が冷静に決めて栄が先制点をあげた。直後、今度は神工⑧齋藤が退水を誘発し、自身が決めて1-1に追いついた。再開後、栄⑧皆川が6mSHを決め、神工も右45°から③久保田が決めると、その後は再開後に両チームが取り合う乱打戦となって、埼玉栄3-3神奈川工で第1ピリオド終了。少し、双方DFが甘くなりすぎている状況をどこまで修正できるか。

### 2P

双方のDFが落ち着きを取り戻し、長いラリーが続いたが、栄のシュート後のリバウンドミスをついて右45°から③久保田が決めて神工がリード。この頃の栄はセットが広がり過ぎて得意のパス攻撃が発射。前線の3人と後方の3人との距離をどれだけ詰めた攻撃リズムに戻すかがカギになってきた。そのリズムがピリオド終盤にようやく生まれ、②阿部がボール接点で勝ってからの得意の右展開からの4-3速攻で同点に追いつくと、一気にムードが上昇。ピリオドの最後は④永井のハーフライン近くからのロングシュートがブザービートで決まり、埼玉栄5-4神奈川工で前半を折り返した。栄DFがややもたついていたが、ピリオド後半に得意のボール接点勝負で奪取できるようになった栄に上昇機運が生まれてきた。神工はパス出しに時間がかかるようになり、栄のDF網に引っかかる形となっていた。栄はメンバー交代を繰り返し、常に選手をフレッシュさせたことが好循環につながってきた展開だ。

### 3P

しかし、栄は中心選手の②阿部が神工③久保田に退水を取られてゲームエクスクルージョンに。この退水攻撃を神工⑥仁木が決めて同点に追いつく。しかし、直後に栄⑥菊池が退水を誘発し、⑧皆川が決めて突き放しにかかった。さらに、神工が得意とするGK①吉村のロングパス攻撃を栄GK⑬大木が先読みしてボールを奪取し、そこから2-1速攻を⑤濱が決めて2点差とした。このプレーが最後まで響いた形。中3~高1くらいまでのGK①吉村ロングパス攻撃はカワサキ、神奈川工の大きな武器であったが、このところそうしたプレーをあまり見せていなかった。神工⑧齋藤がループの6mSHで追いつくが、⑧皆川がボール保持力で勝ってシュートを決め、埼玉栄8-6神奈川工の2点差で第3ピリオド終了。このピリオドは双方がメンバー交代を繰り返す総力戦。ただ、神奈川工の③久保田にはボールが全く渡らなくなり、この左利き選手を起点とした攻撃パターンが消失してしまった神奈川工であった。

### 4P

2点差とした栄はやや余裕をもって対応するようになってきた。無理な攻撃を封じ、失点しない展開を継続。神工は相変わらず、右サイドの③久保田にボールが渡らず、攻撃展開も単調になっていた。そうした展開では栄が得意とするボール接点での出足奪取が効く。ピリオド中盤に、⑨久保田がそうしたボール奪取してからの⑧皆川の6mSHで3点差。さらに神工のシュートをGK⑬大木が防いで速攻へ。冷静に⑧皆川が決めて4点差に広げて残り1分。ほとんど勝負ありの状況であったが、神工主将⑧齋藤がメンバーを鼓舞し、残り1分を切ってから2連続得点したものの最終的には埼玉栄10-8神奈川工でゲーム終了。埼玉栄の優勝が決まった。

この試合、前半の神奈川工③久保田はいつものようなプレーでチームを牽引していたが、第3ピリオド以降、ほとんどボールと絡むことがなくなった。前半はシュート4本で2得点だったが、後半はシュートゼロ。左利き右サイド起点プレイヤーとして重要性が高いだけに、その機能を失った神奈川工が失速。それだけ埼玉栄のDF陣が相手の起点を封じていた形となっていたと言えるだろう。最近はやや劣勢に立たされていた埼玉栄がライバル校を撃破した自信回復は、この夏の大きな見どころになっていくだろう。今回の上位4校はほとんど紙一重の状況で、夏シーズンの競い合いが今から楽しみである。